

ユニバーシード結果速報！

村越 真

フランスで開催されているユニバーシードはオリエンテーリングマガジンの原稿締切間際ということで選手のコメントなどは取れませんが、とりあえず飛びこんできた結果のみレポート。

8	赤石英美	34:18	JPN
13	小林啓恵	37:27	JPN
16	深沢博子	39:43	JPN
17	塩田美佐	43:52	JPN

紺野 クラシカルで快走！

クラシカル成績

MEN

1	GUEORGIOU Thierry	78:17	FRA
2	ERIKSEN Bjorn	79:07	NOR
3	GONON Francois	79:11	FRA
40	紺野俊介	94:05	JPN
59	高橋善徳	104:17	JPN
63	柿並義宏	110:45	JPN
MP	金澤拓哉	101:37	JPN
MP	山口大介	94:22	JPN

WOMEN

1	LUDER Simone	57:06	SUI
2	BERNHARD Regula	63:19	SUI
3	SCHMALFELD Karin	64:47	GER
46	伊藤恭子	84:13	JPN
48	深沢博子	87:23	JPN
50	塩田美佐	91:42	JPN
53	小林啓恵	99:31	JPN
54	赤石英美	101:05	JPN

伊藤 日本初のファイナリストに！

ショートディスタンス成績

A FINAL MEN

1	GUEORGIOU Thierry	26:56	FRA
2	LOSMAN Petr	27:09	CZE
3	DOMONYIK Gabor	27:14	HUN

A FINAL WOMEN

1	TEROVA Bohdana	26:04	CZE
2	PERELIAEVA Tatiana	26:43	RUS
3	SCHMALFELD Karin	26:50	GER
38	伊藤恭子	39:32	JPN

B FINAL MEN

1	KLAUSER Hubert	25:50	SUI
2	FISCHER Axel	27:05	GER
3	ILIEV Lachezar	27:50	BUL
5	紺野俊介	29:21	JPN
13	高橋善徳	31:26	JPN
19	鈴木慎一郎	34:52	JPN
22	柿並義宏	36:27	JPN
24	金澤拓哉	40:28	JPN
25	山口大介	40:39	JPN

B FINAL WOMEN

1	HERREMANS Sofie	26:42	BEL
2	ALSAUSKAITE Dainora	28:45	LTU
3	MANISSOLLE Perrine	30:31	FRA

リレー成績

MEN(14)

1	FRA	184:36
2	CZE	186:12
3	RUS	187:10
4	GER	187:20
5	GBR	192:24
6	NOR	192:34
7	SUI	193:32
8	LTU	198:27
9	HUN	199:51
10	EST	202:16
11	AUT	202:26
12	ITA	202:50
13	BUL	230:48
14	JPN	240:31

WOMEN(11)

1	SUI	158:02
2	CZE	163:10
3	FRA	167:28
4	GER	173:32
5	LTU	173:54
6	ITA	176:11
7	GBR	185:09
8	HUN	201:55
9	BEL	214:49
	AUT	mp
	JPN	mp

コメント

第13回の世界学生オリエンテーリング選手権（通称ユニバー）が8月28日から9月3日の7日にわたってフランス中央高地の街ロアンヌで開催された。

今回はクラシック、ショート予選決勝、リレーを4日間連続して行うというハードなスケジュールであった。そのため前半のクラシックやショート予選では結果が残せたが、後半は疲労のためもあって集中力を欠いたレース内容となってしまった。

クラシックでは紺野俊介（早大4年）がトップと120%で走り90年代最高の40位に、また伊藤恭子（筑波大卒）がショート予選で日本人選手としてはじめてAファイナルに進出した。ショートでは紺野がBファイナルで5位となったが、リレーでは男子は13位のブルガリアと10分、12位のイタリアとは38分差の最下位、また女子は失格であったが、タイム的にも9位のベルギーと40分以上の差があった。

トレーニングキャンプ

ユニバーに先立つ8月24日から27日までの4日間、サンティチェンヌの街の郊外で日本チームのトレーニングキャンプを行った。今回は、主催者が3つのトレインにあらかじめコントロールを設置してくれていたため、コーチが一人という状況の中でも比較的楽にトレーニングキャンプを運営できた。トレインも比較的日本の地形・植生に近く、選手も十分に対応できた。

キャンプの宿舎は地元の農業学校の寄宿舎で、食事は近くのレストランで提供された。思った以上にフランス語が通じず不便であったが、主催者やレストランの従業員いづれもフレンドリーであったのは救いである。閉口したのは食事である。レストランで出される食事は前菜・メイン・デザートと昼食・夕食ともたっぷり2時間はかかり、これが大きく生活時間を圧迫した。また、肉が多かったり脂っ濃かったりする。おいしいのだが、日本人の胃腸には負担になるものが多く、各人食べる量の調整には気を遣った。

ユニバーシアード

28日、チームはユニバーの宿舎であるロアンヌ郊外のシェルベの農業学校寄宿舎に入った。トイレやシャワーは共有であったが、清潔な4人部屋の脇にミーティングルームのついた、快適な環境であった（選手が帰ってくる時間帯にシャワーの湯がぬるくなるのには参った）。こちらの方は食事も寄宿舎のカフェテリアで提供されたので、時間もそれほどかからず、自分のペースで食べられて良かった。

また大会には中部・南部フランスから多くの学生がボランティアとして集められており、働いて（時には遊んで！）いた。フランス人の英語下手は予想以上で、学生でも英語が話せない人が多いのには驚いた。そのせいもあって、各チームには英語が話せる学生ボランティアがガイドとしてついていった。プログラムには「各チームが自由に利用できるガイド」という表現があったが、実際私たち日本チームについてのガイドのソフィーは献身的に私たちの世話をしてくれた。彼氏が日本人で日本にも来たこともある彼女は時折ユーモラスに日本語を交えながら選手たちを和ませ、また必要な手助けをしてくれた。エキストラの要求（例えば、大会中誕生日を迎えた伊藤のためにケーキを用意するように食堂にかけあってくれた）にも嫌な顔せず、むしろ一緒に楽しんでくれた。

大会運営は、プログラムに書いてある情報がコロコロ変わったり、開会式の時間が何度も変更になったり、前日のリーダーミーティングで提供された情報通りにスタートが設定されていなかったり、いわゆる「フレンチオーガニゼーション」が随所で行われていたが、主催者はチームのリクエストには真摯に応じてくれた。そのため運営は「いい加減」というよりはむしろ「柔軟性」と感じられた。いわば、人の良さにだまされたというところだ。

レースは、ショートの前選を除くと、標高およそ1000mの丘陵の急斜面と山頂のなだらかな部分を使って行われた。昨年12月の大嵐で随所の通行不可能な風倒木地帯が出現していた他、若い植林地が多く、クラシック

を除くと通行可能性は概してよくない。また斜面上には、岩や崖が散在しており、アタックには注意を要するトレインであった。実際、可能性の悪い部分での直進や斜面上の岩地でのオリエンテーリングに日本選手は苦戦していた。それでも全体的には大陸的な森であり、北欧でのオリエンテーリングほどは違和感がなかったようだ。紺野や（ペナだが）山口のトップの120%や、伊藤のショートAファイナル進出はそれを裏付けている。

大会前半こそまずまずの結果を残せたが、後半は今一つか二つの出来だった。特にリレーは、前半の結果からの期待を裏切り、男女ともタイム的には最下位（女子は失格）であったし、上のチームとの大きな隔たりを感じさせた。体力的な不足や追い込んで走る経験のなさが、厳しい結果を生んだのであろう。まだまだ精進が必要だと感じた。